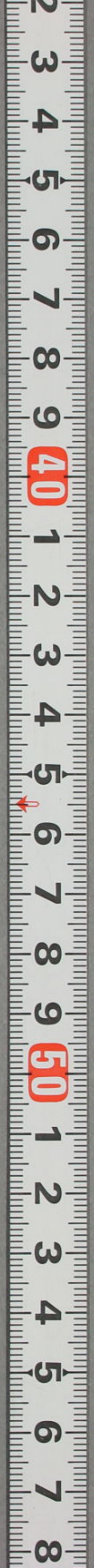




町人囊底拂

下

七





町人囊底拂卷下

日本ハ少陰の國と造化生々氣壯きひたるや世



四世推古すいこ帝ハ沛時はいじ人民の數四百九十六万九千餘
人々々四世聖武帝ハ沛時はいじより八百六十三萬
一千餘人々々兩帝相去事百二十年人民の増益
凡二百六十六万餘人是と唐土の人数ハ較くらへるや
前漢の人数五十九万五千九百七十九人々々
より後漢三國さんごく晋しん南北朝と歴々隋すいの代より
人教四千六百一萬九千九百五十六人々々より次
唐宋元明と歴々今清朝よりては教凡六千

二百萬と云は漢より隋へ却て人殺減少と其間凶世
多かり故より隋より清へ至りて一千百年にて人殺
の増加凡一千五百九十八万人なり今日本れ口殺凡二
千何百万と云は隋へ推古帝れ何れ相當なり此時日
本れ人民五百萬は不足とて今二千餘万人ある所は
唐土の増益より甚多し地は凡唐土十分之一は不足
して人殺は三分之一より多きなり今清朝の人殺凡
六千二百万人と云は日本當代の人殺二千四百万人と
静と主として人極と云ふを得るなりと云は静は
二のなり動静は静と止静の静とあり動静は静は

僅に動と雜する天の運行地のまゝ常に健と
して須臾止時あり動は天の進ひより静は天の退く
なり進ひも是動退くも又是動也動く事ありては
退く事ありては陽も是動陰も是動也動は進
退遲速乃何なり是と動静と止静は動静を
雜れて論じ天地萬物滅し已はるなり止
静は動と云ふところは陰陽動静は晝夜は皆
太氣の往來ありてそのまゝなり其の理也此理
常に太氣は動なり事ありて或はなり一氣は動れて
別は理といふものあり則眞の理はありといふと

名付へきつてはあつた。

國の貴賤は繁華とあつて定むるに飢寒の民
なくん^{ろうぶ}あつたを上國とす。繁華れ國の財宝
多くて食不足質素れ國の宝貨とくあつて多
食餘りわり含み民の幸あつて民の國の幸なり
本國さうたの國安うとや

淮南子に寒國は壽多く熱國は夭多しとつて是
人體の説めて今委く考つて一偏といふに
南天竺莫卧爾國は暖國とて長命なる國なり
百歳を起る者多しとて其人質素なり風俗

わりて静小噪りて鶏は含みとつた豬肉は含み
多事と林と按ると壽夫の國の寒熱は事
人れ質素養性より文華は風俗とて大酒肉
食の大過に依て夭死とふが故也然れは寒國乃
人に酒肉は傷らる事すれ暖國の人夭死多
き事へ酒肉の過熱大過に依てなり美酒牛羊
猪鹿皆大過熱の食地氣の暖熱は含きて元
氣は消えな故なり。紅毛人其本國は北方
寒國なりとつた咬啗吧國乃大熱國は居住
むる酒肉と大寒地のゆへに含とるゆへ

紅毛人壽命五十歳より下る者ほ多くいふ四十年
あてま死に事國に長命れ國なりとてや此の琉球
臺灣多れ燠國の人短命多き事い皆酒肉乃食
は依てなり莫卧爾國に長命なる故なりて家とて
日本神社は肉食と禁制とある上代はいふりしや
古書小天子元心の時齒くふ小猪肉わり中右
小天子れ供^ぐ神は猪鹿木乃肉類ある事と因に神
社に依勢態多しは四足の食はるるあり
若誤く食する時いふ身體は病患生じと云
然る小信濃國諏訪の神社といふ四足とあるは

神供ふるも神人等も食て何の祟患もはと
るる按る小上右の神明水土乃寒熱と家
信の萬民の壽夭病患と恤むかのく其水土の氣
小随ひ給して食れ其氣定り教へて死疾病か
るるをんもの神靈なりと此故に日本水土乃差
別南海の諸國日輪運行の線道に近く大湯
寒水の海潮の氣を受ふ事強くして温暖濕熱
の氣は屬と猪鹿乃肉食濕熱なりて地氣は合
して甚大過とて疾病多死多しといふ信列諏訪
那の日本第一乃寒地也湖水凝凍して人馬水

上と付本と地氣を寒燥より此故に神明人民
小教へ免ゆるて肉食乃溫補とありて身體と表に
て寒固とて大海潮小近く溫熱の氣多き水土
ゆて肉食を食ふべき理なり本朝神明の末代を
鑑み君子の爲智を深と事なり

唐土の儒道と日本の神道と似く異なり處有
是弘辨とる學者は神民よわに此差別いふ
といふに智ふ厚れと義勇に厚れと也厚れと云
いおの通事するふわにをのつては必乃氣風之
宋朝の宰相韓魏公（かんぎ）いふ文德兼備の大賢なり

或時相列の漢^{かん}にして約^{やく}するに折^{せつ}を釋^{しやく}其^{その}内^{うち}を
當^{あた}りて人^{ひと}齋^{さい}館^{かん}に一宿^{しゆく}して孔子^{こうし}を中^{ちゆう}にぞりしるふ
其^{その}夜^よ盗^{たう}人^{にん}共^{ども}ひ入^いて韓^{かん}之^の寢^ね所^{しよ}に帷^ゐ幕^{まく}を叩^{たた}き刀
を拔^ひちて公^{こう}より一^{いつ}矢^やを我^{われ}世^よに侵^かはし濟^きし公
得^えんを女^{にょ}を求^{もと}むなりといふ公安^{こうあん}と事^{こと}なり今^{いま}も
器^き財^{さい}百^{ひやく}金^{きん}の直^{ちやく}あるに皆^{みな}海^{かい}をわたりて盗^{たう}る云
是^{こゝ}の得^えんとふいかに願^{ねん}く公^{こう}れ首^{くび}を得^えて西^{さい}
人^{ひと}は獻^{けん}せしといふ韓^{かん}公^{こう}則^{すなは}ち顔^{げん}とて少^{せう}く愛^{あい}する
をを考^{かう}めぬるは盗^{たう}人^{にん}感^{かん}化^{くわ}して公^{こう}に天下^{てんか}れ
德^{とく}量^{りやう}第一^{だいいち}乃^{すなは}ち君子^{くんし}なりといひて刀^{たう}を捨て拜^{はい}敬^{けい}

一此輩人ハ世に後なる公の徳量とて試みてぬれ
成として器財とるをてぬれ公則齋館乃
器財と別償い調て後ていひける人ハ後々
ありしものハ世に彼輩人他乃輩科と捕
と誅とゆい除てんつ先々此諸と韓云
乃徳量斯のゆゑに公は此をさるに惜んで今
もつ世に公事斯のゆゑに公は後々韓云
の徳量とぬれ君子とるを然れは韓云と日本
の人よて日本にぬれ斯のゆゑに公は柔
弱なるものハ婦人女子は師沙門の身ありてハ

沈静神妙なる事也武士ありてハ大身小身
ふより男をたの戦と得て一分廢れん事必
然なり町人百姓ありてハ温和結核ハ事ハ
一と信人ハ安いと受ん事ハ定なりある盗人
ハ勢ハ其後とて最に頭とのん事ハと海
さま也盗人偶ハ公の徳ハ感とれん事ハと
若さハかきものありふやふとの後長
けふ在てる君の危ハ孤とるにいひつ
日本ありハ罪科ハ大なるものハ又盗人の
をあると制とて守りて終る人ハ後々

を継ぐるに此盗人又仇をやるかんと思はれ侍るを
かたう日本に神道といふもののみ唯ふは倭人
僅に愛を以て沈静めで顔色常れぬあるは大
徳の君子とせし近代天下武勇の達人と田原灌
入道持資もちしげ諡者かんの故ふ主人やうじん命とて討
平とつたといふに道灌といふの氣色をて扇然なるを
の心海といふは今の情うあらねてある身といふは
かく諷して首級のとて付を終りやけとて道灌和
希は達者といふは何ふとていふといふは
よし今の世といふは教をぬる也道灌は其代の韓魏

公ありといふ中へ盗人は首級のとていふといふは是
唐土日本君子に仁勇は不同なり子細く是等のふ
わいどで唐より傳へるにさし世國といふもの
ら世國の氣風は愛化とていふは人のまゝにとい
は水とていふはいづる理あるものといふに
し傳に「聖詔ありはいふていふのまゝに」といふ
事ありといふや禮度器財文筆の風俗をや世國と
いふものといふと貴とていふは氣風乃て愛とて他のほ
より智と事ありは質素正直の神風をいふといふや
五雜組は倭國儒佛の書紙信と中國の書紙をいふ

價を求むといふは孟子は「若中國の人民孟子を携
へ往來せしむるは其再覆溺と見ふ又一奇事なりと
わらふ事未審さるるを信ぜざる孟子は
禁じし事不聞一日皇明通紀と云ふに明の太祖
孟子は臣と云ふ事草莽の民と云ふ事何れ臣と云ふ事を
みづる寇讎の如きといふ事をかゝりてや孟子は
然る惡く廟祭と除んどの事ひきりて祖の惡
ふ意はたゞいふは寇讎の如きといふ事諸葛亮
も「唐の代の人民孟子の語を氣味よくせし
樂討の君はわらふといふは僅に孟子は過ある所は孟子

乃語を以實にして信し惡しむるの也は故に太祖乃
惡く信ひしや唐土の如きも明の如きや
日本は人情といふ事いふ下は太徳は孟子の如きや
樂討といふ事君に事するといふ事は孟子は
天下と奪ふ所の例は此國人情の免るは處あり
偶に皇位と奪ふ事といふ事ありといふは皆久し
め天罰といふ事此は神裔の帝位は昇る事
不可是を明水との風儀也然るは孟子の如き
寇讎の如きといふ或は孟子は謀る事と云ふ事
君は裁と云ふ事不聞といふ事孟子は日本は

天子に對し奉りて憚るべき句也此故より今日をふ
 る孟子は書はざるに事と禁制あり事とわんう五
 雜俎乃說實をて虚といはるるに其後武家の代と
 成て終に天子は遠隔ふ遷うつりてありてなりてより
 口實のなる孟子は禁止する事ありてなりて
 唐土乃風俗禮儀より多く人道より固ちるる故に宋代
 文華にむるふを以て禮儀奢かたがて僭せん禮れい多おほき
 公卿より禮儀僭奢多き所い何より人々事繁はん多おほき
 成り世の中いそぐさ風俗より繁華極り乘ふに
 亂みだり成るなりとや明の太祖胡こ元の祿はかりを清り萬

代の功を立信ひり世々の大功や終るらんを祖大
 明律と定め萬世に龜鑑をあらせしむるは古聖
 乃仁義を復せんを欲せり大禮儀を奉い人未質
 素ありしにや禮禮多し祖の謚に欽明啓運
 後德成功統天下孝高皇帝といひ太宗乃謚は體
 天弘道高明廣運聖武神功純仁至孝文皇帝と
 号せり其以下の敍代りみまけ謚の彰ひ也此謚より
 小亮舜禹湯文武の謚よりいへり付さく文字か
 りし秦始皇帝六國を併せ統一統有る功德三皇
 五帝と並せりを始て皇帝れ号せしむる是始

皇れ悪行のつやふは未だて悪と謗ふ事也
後代の天子始皇の政道をい悪とあつる皇帝れ是の
と事なりてふ及て皇帝れよふ文字は添く
る様といふも皇帝の是と不足とすれ也漢晋唐
宋皆然り明朝れ如斯なる事をいつく

書然る事多きものいふなりとて儒書
十三經註解數百卷諸子百家法註數千卷歷
史類數千卷各其末書細註と合して數万卷
其他の雜書い不知隱微是皆身証也其家証
との國証治り天下平るありるの用也其証

書の義理漢唐の學者誤りていふ事多き
にと宋朝いふて大儒多く出でて聖經註解
れ其の儒の誤りとはよく改むりて治國平天
下の事術世に大成と然れ其力のなる事不
能處ありとて後中國家古の有りなり明の
太祖是儒道を信りて宋儒れ闕るを補ひ
十六世二百七十餘年の治平ありて其間編作の
儒書不可勝計唐土の學術は其全備と云
ふは國天下に北狄の有りなり事いふに
さ事也とて其書籍文章國土は充満と云

世界第一の上國なるの學術其徳用いづるや
是書はるる事多し國の迷亂いふ多しとて
げりや日本に上代なるる書少して神道王は明
らふ國饒ふ民直なりとて未だなるて書籍國
土に充満し人民文章多して及んで神道王は
抑るる國驕る人仍謀多しむらう

佛は天竺の如く相傳の教なり然れ其は其經
盡く唐土に傳へりて本より佛は善惡
經傳紛失するや吾國のほ他乃國は傳えて
吾國より失ひたりといぬる南天竺の國

近代他邦れるふ奪ひ傳へて國多しとて
國はふらう佛法の徳用い天竺のふは非を
中といふに藏經二千五百部九千七百餘卷只
是即心成佛の教なり然るふ自乃國はつて
他のふ奪ひたり是とて即心成佛ありといふ
つるに日本に武勇とて本に文章とて未だ
百世不易れ要害の國世界第一なり人情氣風
文章器財はるる萬國は類いず別の一風
乃安ありて藝能細工のふいみなる其好む
處清潔は沈黙なりとて抑るるは

のりて姿なりとて中じ是此の王の神なり
とてふ事代儒仲は書多くなり唐王天皇乃
まは教ふ人多くなりといつて中じ異國の氣
うけりて異國の風神をねむるの風候といやえ
是と俗に異國の姿は真とて萬民を兼を悦
ひ質素と悪く常の風を賞まばて珍く奇なり
貴るやとていふなりとて百歳を過るや
後いふ異國の風神は多作てすやとていふ
とは先いてんやとていふなりとていふなり

世界萬國の開基先後を多とていふて唐土の人の

唐土を最初の國とて韃靼天皇其外四方の國は
あつて其國はいて世界は最初とて中國はいて多
きは窮つてはまた天地に一國渾然の體ありて初
靜始終一なりといふなりといふなりといふなり
開闢此方は最も開闢とての理なりとて其中萬
國人物の開基はあつていふなりとて世運の早晏は
そのはるかにありていふなりとて其開基早とて
いふて貴國に最も早くて賤國とていふなりと
いふなりとて天地開闢の始は陰陽五行なり
なりとて有情ははふ生とて水火土木は生成なり

うら有情の氣化有るは有情の虫魚の類なりて
 後鳥獸氣化なりて鳥獸生るは後人偏氣化なりて
 草木の雜膚の類先いづて靈秀なるもの後み
 生るは鳥獸の小鳥小獸なりて後人偏氣化なりて
 草木の實なりて先その形色なりて實は香味
 の後生熟なりて形と色と外なるなりて味と
 香味の内なるなりて貴也此は二種の開く事
 外より生るは香氣の後生熟なりて或は實は
 先外を堅くするは核仁は小定なり是貴なる物

いまにして賦きそのい早くせむなりわたりて
 世界萬國の開基其地の陽氣は偏なるなり
 早く開基の氣化陰氣は偏なるなりかくは
 氣化其陰陽中心の氣なるなり遅速の中間
 開基氣化なりて都て物の氣は始中終あり始
 と終るとい形氣の中心よりわたり中氣は正氣
 とい天地萬物の中心の氣なるなりとて國土
 乃開基早きなりとてなり

日本國分りて佛者の粟教國とて儒者の中國
 より開基なり屬國なりとてなり今い世界大地

乃の如くはるべし此大地世界といふ實に測量の
考驗ありて其周大日本は萬五千里ありて是曠
蕩の說より其内鴻洲多しといふ日本は如
かりとの八わりあり日本と爲りて寸ちるは
豈粟散圃といふや則日本は此よりて大地の三
百六十度小配属よりふ東西十二度と得り天
れ三十六禽は配属をしる所の十二度一禽の
分野あり其宿の亢星は屬とて筑紫の角星
の終度と爲りあり一禽二星の氣は屬に
天の星禽は萬物氣化の始あり日本は境に

ありて豈氣化の神人ありと云ふや日本の禽は蛟
龍といふなり

文字の言語の符契を人用を達せしむる爲なり
此故に世界萬國ありて文字あり偶文字あり
國にありて其國相應れ符契ありといは
其文字はるるふみは五音悉曇の如く習字の
つといて文字の數は千文字或四千八文字より多
かり紅毛人の文字は二十四文字ありて二字は
とるを合して一字に都合四千八文字と爲り其
一字の筆畫四五畫より多しといはるる唐

土の文字其數甚多く筆畫多うして是じりて
世界第一なりと云ふは外國の文字も人用ふるを
達して不足は唐土の文字も多うと云ふは人用
通達ふゆゑに別なりといふは又云ふは按ては外國の
訓語も訓語もて唐土の訓語も然るは外國の
訓語も其意義詞のうゝわたりて文字の意は文字
に假し用ゐるものと其文字は又云ふは又云ふは
是の則ちの語意を一通達と文字と待するは日本
に和語の類別見たり唐土の韻語は文字に依るに
語意解にに此故に詩文も其句韻の依はるに

其意義解にに文字は又云ふは又云ふは又云ふは
者なりといふは又云ふは又云ふは又云ふは又云ふは
語は譬の東の字韻と云ふは又云ふは又云ふは又云ふは
字の意義同いとも字註は依て目出の方ありと云ふは
韻語は平上去入四聲開合紛々として又て迷ふ事
多し訓語も又云ふは又云ふは又云ふは又云ふは又云ふは
又云ふは又云ふは又云ふは又云ふは又云ふは又云ふは
事必は又云ふは又云ふは又云ふは又云ふは又云ふは又云ふは
又云ふは又云ふは又云ふは又云ふは又云ふは又云ふは又云ふは
唐土の外の韻語の國只一國なり日本は東乃大

易小字露國といふなり此國乃新唐土の如く顔語
なりは古老の語なり此れ萬國の日本れ和語
先としてみふ訓語也訓語の文字はよく以顔語の文
字多ううされ其用達しうに多き多きなり故に多
け筆畫多ううされ多き多きなりといふや未代に筆
畫なるふりて風流巧妙の字樣さめたりて一
字十體百體の姿と違ひ奇異の字形と歎する
と如て一生見れば勢なりて好むと争ひ傲ふ事と
なり義之り此の字を番か子昂く水の字灌
濯は月か火け字暖なり其の國といつてや

歐陽修の語は物極あり美なるものなりて氣の偏を
得るによりて也又紅顔人は勝るものなり多き命
なりと誠は奇珍を好むなり天地の偏氣は悦
ぶは偏是れ故なりふは勝るて富か人なり天地の偏
運を受ふ事厚なり又貪は人間の常候なりや
生れはゆれ姿なりふ食はのほり母をみるれ
るといふ衣服は富と違ふなりといふなり
財を求むる始なり天地の萬物を生ずは祖
なるものなり富なり多き精なりものい寡は貪は人
の常なり富なり多き富は人の偏なる故は寡は

此類は富の貧中より出で給ふ又貧の富より
栄落なりて貧より栄落なり此理と云ふ我々
人々富を樂みたる意にては惜し
文質彬彬たる公君子と云ふ彬々たる文質の
あり質ありて文ありといふはこれ極まり陽は
して質は陰なり陽は常に進みて有餘易く進
むる極まり陰は常は退きて不足易く退
く事極まりの意といふは人事の進む退く
あり有餘より退く公助もて不足に就く
めより公人れ道する凡萬物各文と質を公不具

いふは質は先ありて文は後也一樹の枝葉繁く花
と云ふ物は其壽久しく花多し葉少きもの其壽
久し以松柏樟樟の如き花の多し葉の少し其
壽長く櫻梅桃李は艶美ありて其壽久し以
花の文ありて葉の質なり都て草木の花多きもの
は葉れ花より勝るものば葉は月を経て落といふ
花は月夜を多しと散りて文といふは四時ありて
質六七からるを彬々といふは況や又天の陽は
五方て地の陰は六方天地の質は屬一七曜と
萬物といふは屬一と文質は多寡是は由惟と云ふ

唐より日本に末代の風俗は文華にありて古禮は實
を失する多し。其社廟堂は額を付せず。唐土より
傳へ習ふ久しき事也。然れども古代の額はたゞ能書
といふは官位後の元俗に書と云ふべし。又額
の表は姓名とて不書。今京都の古寺古社は上代名
筆は額あり多くは筆者の名はしるはく額乃
裏に筆者の姓名あり。有とていつるはたや也
尋ふ武人のいつれは思ふれぬ事あり。其殿に額い
ひといふ事なり。そ奉尊神像の面額に表とての
少て其下に名を貴けり。頭上は拜戴し。蓋殿のを

を發とし。此はふふ家なる長け人。或は仁徳の孝僧と
いふ額表に姓名は著し。其は教のむ。唐土は
斯るに根本異國より傳へる事なれ。唐土は帝
統は世移りて姓はく。朝庭の故實風俗を失ひ。日
本は皇統は開闢より變ぬ。天子一姓を傳へん
故禁裏上代の故實。今たは朝庭に立て。不失此故
り異國より傳へ慣つる。唐土は絶る事日本ふ
い失ひ。さういふ。況や本朝の禮神社と宗教
する事。尤も然る。是は近代唐土の風俗あり。と能
書とてふ。あはれ。無官位は無德の元俗とて嫌

かく神社廟堂の額と書とるも額表は如く公憚り
書記とて思ふまじ末代のみや和漢乃風俗
ふりてまじまじ文字の道公納ふれ器也是公愛敬
とる人見と謹しむまじい文章誠なりと云んや
和漢の語乃差別といふ日本此語の體用とけり
唐土の語の體用とつるなり書に書ふつるは
いはれしといふ君とすとい體とつるといふ
はは用から體と先といふて用公はよとい順也
小唐土の詞の事つる君といふはしむといふ
用と先といふ體とをばつて是送るのあふ其
天

字公日本にて讀とれい下よりつて事君愛子
とよむ也是自然の理なりとけり
理いふは按とる日本國の東方にあり唐土の西也
天體いた旋と七曜の右旋と天の體なり七曜の用
なりた旋の體とをさして東より西より右旋の用
ををさして東より西より地の萬物すも皆是
右旋た旋の運行は法て造化生成せはは況や
五声十二律人語鳥啼獸吼もの水土自然の細
音ふたふいゑとるまはいんや人傳り言語
謠歌よめとるは日本れ訓語の衆國れ詞語

より精しく能く人への氣の感通を易れた之譬いつふ
をいひつらうとせしむる事あるは是れより
是れよりいふ人下知ありつらんは是れより
とい後日此等なるをわたり又はくいつらんを
いはるる廟のものとかなひの如く同字同語とて一
字の差加つる事あるとていふ一音の各別の
諸意とかなひ唐の韻語よりを精しく通
やすれり。和漢の學者能く考察とくさるるや
今儒の説は影像と建て祭祀といふ道理のわきと
いふといふは影像は其人は一毛も誤る事あり

則其人ふわに此は祭祀の影像と用ゝるは唯
神主を用ゝと程子も論しをいひ也。此は明朝
よりみよといひ釋奠の聖像皆影像とあり。漢
晋唐宋の如くして釋奠の聖像或は金像土像
或は木像畫像を用ゝる然るも明の左祖帝程
子れ説は僅いといひ禁中の聖廟釋奠は影像を
も本主に用ゝるといふや宗廟の祭祀はこれ
の如きの事也。然るに漢晋唐宋の釋奠祭
祀は影像を用ゝるは皆非義めて鬼神感格と
す。明朝の釋奠祭祀而も鬼神感格なり

と神明の受りて處ありて蓋然像は其人の形
體は一毛と語つて其人の貌は美より劣る所あり則
其人亦非なり故に感格され道理する所なり祭
祀よりありて尸を立たり尸は鬼神の代り人を
立て鬼神と見へ憑りて見れば其尸を倭
語よと云ふと訓より形代の義ありて其人の
髣髴よりして孝子の誠情は盡くしより更全く
其人は一毛を差へる事あり人を以て人なり都て
天地の間は生るる類人而して非と萬物悉く
全く同じき物なる事あり我身已に我身あり

我身已に我身ありと耳目鼻口毛髮四肢百
骸全く我體と同一者天地始終一元の同なり
我身一人ありて同人は人なりと断ちたり此禽
獸虫魚草木金石も亦同じて大小形色厚薄輕
重盡く相同き物は是形體ありて常ありて
自然の妙也豈一毛とありて人なりやいや
然像を鬼神に憑りて事神主然像の差別
なり況や尸を立たり尸は鬼神の代り人を
立て鬼神と見へ憑りて見れば其尸を倭
語よと云ふと訓より形代の義ありて其人の
髣髴よりして孝子の誠情は盡くしより更全く
其人は一毛を差へる事あり人を以て人なり都て
天地の間は生るる類人而して非と萬物悉く
全く同じき物なる事あり我身已に我身あり

又い神體乃儀を安んず神體よきはくわの或いは
神體に或は樹木或は鏡又は御幣と神體に
或は矢劔刀或は木像畫像を神體とすかのく
其社乃故實舊例よきにして同めは或は三輪の
社いん神體にして寶殿ありや神明の靈體よ
して物よ無つて不存といふは社よ神代より此
社の後代の靈社より其社よ神像をく神體と
する社の神明と靈魂と祀ふれ差別あり辨ふ
べきを志する日本に人い父祖の靈魂と祀ふれ
神像と用いんる例式をなわはしめられも四

民庶人け寢よ祀ふ輩い神像と重なりけり
いんや程子の説よ白屋の家よ神を以て用へり
牌子以て用へるといふ儒道を信する人といふも白
屋の庶民あり神を以て用ふるの儀禮なるべし
牌子といふ世俗入り位牌乃数なるべし但今時乃
位牌といふ金銀彩色ありて美廉あり庶民
以下れ用へるといふは百年前の位牌を寺
に於てんる事あり皆白木又は黒漆にて右
代の風あり牌子も此類なり志ある人い本主
を省略して素木の位牌と用てゐるべき事や

石町人囊同底拂の二書ハ長崎乃隠翁求林翁
 西川老先生編集一後之也先生去年の冬東へりて
 内帑々篤公都より我書弘くをみ彼送還
 送る書籍物よりのはなり人の此書は事よ及我國て
 意々求くても先生より送りと同く同郷の学友其
 よりいゝる再とに及て送る此書は長崎より得たり其町
 人囊と云ふは先生の謙れ辭也と云ふ早く採ふふり
 といふ永世に度わい士農工商の寶袋とも成るんといふ
 其係已亥年林鐘穀日 洛陽書林柳枝軒書

洛陽求林翁西川先生撰述

柳枝軒刊行

町人囊 并底拂

七冊

虞書曆象俗解

未刻

三冊

長崎夜話

五冊

兩儀集說外書天文義論

二冊

水土解辨

二冊

幹枝數原

未刻

二冊

天文和譜注

一冊

運世年卦考

同

一冊

日本水土考

附兩域數考

一冊

氣運盛衰論

同

一冊

四十二國人物圖說

一冊

天人五行解

同

二冊

右旋有無論

同

二冊

